

魔法の数字「3」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

戊申150年、維新150年、最後の将軍「徳川慶喜」に関わる歴史番組を興味深く観ている。徳川御三家についても数多く取り上げられ、改めて徳川家のパワーバランスを知ることができた。朝日新聞「ことばの広場」にはその御三家の由来が説明されていた。

【御三家とは尾張・紀伊・水戸の徳川御三家をいう。将軍家から後継ぎが出ない場合は「徳川御三家」から将軍を出す。他の徳川親藩とは別格の家柄。五代将軍綱吉の時代から「御三家」という言葉が定着した。数学の『三』には、古くは中国から広がった安定感のある思想がこもっている。一対一の対決より三つのバランスによる「融和」で高め合うイメージが好まれやすい。「三種の神器」、相撲「三役」、野球「三冠王」といった「三」にまつわる言葉は多い。日本人は「おや、まあ、なるほど」と3回うなずいて納得する文化。だから3人や三つで売り出すことが多い】

人生訓の中にも「3」つにまとめられているものが多い。覚えやすく、理解しやすい。

◆三つの意「熱意、誠意、創意」：元祖は元経団連会長土光敏夫の言葉。そこに私が「室意」をアレンジして「四つの意」とした。アイデアはアレンジのたまものである。

◆青春の三かけ「汗をかけ、頭をかけ、恥をかけ」：元祖は秋田の劇団「わらび座」の講演を観賞した時に教えられ、そこに私が「耳をかけ」「書いて、書いて、かけ」をアレンジして「青春の五かけ」とした。これ以上増やすと加齢のために覚えられない。

◆「一日けいこを怠ると自分にわかり、二日怠ると相手役にわかり、三日怠ると観客に分かる」：バレリーナ森下洋子が踊りを極めるストイックさを教えてくれる。

◆リーダーの3条件「判断力、組織管理能力、説得力」：ロッキード事件を暴いた元検事堀田力の言葉。同じリーダーでも、サッカーの初代チェアマン・川渕三郎になると「パッション、ミッション、アクション」となる。名前も「三」だけにさすがである。

◆曾参「私は毎日3つのことについて自ら反省している」(論語)：①人のために考え、行動しながら、忠実さを欠くことがなかったか②友人との交際で信義を欠くことはなかったか③学んでもない、自分でもよくわかっていないことを人に教えたりしなかったか。

◆世界の三馬鹿「万里の長城、ピラミッド、戦艦大和」：山本五十六が無用の長物の代表例としてあげている。どれだけの下々の人間が理不尽な思いをして作られたことだろう。

◆益者三友「素直な人、誠実な人、識者な人」、損者三友「ごますり、真心がない人、口先人間」あの浅間山荘事件で指揮を執った佐々淳行氏の言葉。また、氏は「士気の三条件」もあげている「①共通の目的②各個人の役割意識③我々感情」。チームワークに応用。

バスケットボールのコーチングにおいても「3」の原則は大いに利用させてもらっている。スキルやプレイのコーチングポイントを3つにまとめる。ドリルのバリエーションは3つに絞る。ドリルの回数は3セットにする。1セット目はドリルの方法を覚える。2セット目はポイントを意識させる。3セット目は修正点、追加点を加えて仕上げる。

人生の教訓やバスケットボールのコーチングなどで3つのキーワード、キャッチフレーズにまとめることが好きである。現在周囲に吹聴しているのが「3爺」、チャレン爺、リベン爺、スーパー爺。真剣な老人の初心者として日々のひとときを過ごしたいと思う。